

情報科（社会と情報）学習指導案

学校名	茨城県立土浦湖北高等学校	対象クラス	1年4組 42名（男子 21名 女子 21名）
実施日時	10月11日(金)第3校時	指導者	速水 奈穂美
実施場所	特別棟パソコン室	教科書名	高等学校 社会と情報（第一学習社）
単元	第4章 社会における情報システム 第3節 情報社会における問題の解決 2 問題の解決に向けて （問題解決学習 修学旅行民泊先への「手土産」を考えよう！）		
単元目標	ア 社会における情報システム 情報システムの種類や特徴を理解させるとともに、それらが社会生活に果たす役割と及ぼす影響を理解させる。 イ 情報システムと人間 人間にとって利用しやすい情報システムの在り方、情報通信ネットワークを活用して様々な意見を提案し集約するための方法について考えさせる。 ウ 情報社会における問題の解決 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して問題を解決する方法を習得させる。		
指導計画	1 問題をめいかくにする (1時間) 2 問題解決に向けて (2時間) ① 情報の収集 (本時) ② 情報の整理と分析 ③ 解決策の決定		
本時の目標	・問題解決に必要な情報を収集することができる。 ・問題解決に必要な条件についてグループで話し合い、解決することができる。		
評価の観点	・積極的に情報収集を行い、主体的に問題を解決しようとする。〈関心・意欲・態度〉 ・手土産として「最適な条件」、「最適なもの」についてグループの意見をまとめることができる。 〈思考・判断〉		
準備資料	教科書、ワークシート		

授業展開	指導内容	学習活動	時間	指導上の留意点
授業前	・ コンピュータの起動	・ 入室時にログインと出席登録を済ませておく。	5分	・ 全員で一斉に開始できるように授業開始までにコンピュータを起動するよう指示しておく。記録用紙を配布しておき本時の内容を意識させておく。
導入①	・ タイピング練習	・ 「Mika Type」を起動させる。 ・ 「ローマ字単語練習」最低5回は練習する。	10分	・ コンピュータの起動が間に合わない場合、この時間内に起動させ、導入②に間に合うように助言する。  ・ 慣れた生徒には、キーボードを見ないで入力できるように促す。 ・ 記録用紙に記録させ、用紙を回収し、成果の上がった生徒を称賛する。
導入②	・ 「手土産」について考える。	・ 手土産について知っていることをプリントに記入する。 ・ 数名を指名し、記入した内容を発表させる。 ・ 手土産とは何か、インターネットで調べる。	10分	・ 手土産を持参して訪問した例などを実感できるように説明を加える。 ・ 発表の中で、自分の考えと異なる意見はないか、確認できるようにす ・ ネットで調べた結果、自分と異なる意見はないか、確認できるようにす ・ 出典を確認させ、著作権への配慮に考慮する。 積極的に情報収集を行い、主体的に問題を解決しようとしているか。 <関心・意欲・態度>
展開	・ 「手土産」を選ぶ際の条件について考える。  ・ 茨城からの手土産の候補を一人最低3つ考える。  ・ 個人が考えた手土産候補を分類し、手土産として最もふさわしいものを班で1つ決定する。	・ 手土産を持参することの効果について考える。 ・ 手土産を選ぶ際に大切な条件を考える。 ・ 数名を指名し、記入した内容を発表させる。 ・ インターネットを活用して、茨城から持参する手土産としてふさわしいものを考える。  ・ 班で集まり、それぞれが考えた手土産候補を出し合う。 ・ 班で話し合い、手土産の条件として大切な条件を2つに絞り、2軸法で分類する。  ・ 分類した結果から、手土産として最も適切なものを選ぶ。	25分	・ 手土産がある場合とない場合で何か違いはあるか考えさせる。 ・ 相手の気持ちを一番に考える必要があることを理解させるための説明を加える。  ・ インターネットで得られる情報は必ずしも正しくはないことを理解させるための説明を加える。  積極的に情報収集を行い、主体的に問題を解決しようとしているか。 <関心・意欲・態度>  ・ 後で発表することを念頭に意見をまとめさせる。  グループの意見をまとめ、手土産として最適な条件を考えることができたか。 <思考・判断>  ・ 決定できた班は、発表資料の作成にとりかかるよう指示する。 ・ 決定に戸惑うときには、助言する。
終末	・ 次時の説明	・ 次時の説明を聞く。  ・ コンピュータを終了する。	5分	・ 班でひとつに絞ることができたか確認する。 ・ 次時に、選んだ手土産が最適であるというプレゼンテーションを、クラス全体に行うことを説明し、理解させる。